平成 28 年 1 月 18 日
第 1 号（冬季）

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

巻頭言：COC+ 事業が目指すもの

山形県内の COC+ 大学の皆さま。高校生の皆さま。そして山形県内で働き学び生活する皆さま。

長らく産業や科学技術、文化など、様々な面で世界を引っ張ってきた日本は、いま別の面で世界の最先端にあります。**少子高齢化・人口減少社会**という、かつて人類が直面したことのない大変動に、私たちは世界に先駆けて突入していくことになります。

これまで誰も直面したことのない少子高齢化・人口減少社会への対処方法は何か。その答えを知っているものなどいません。もし知っているものがいるとしたら、最前線の中で試行錯誤を繰り返していくことになる、私たちに他なりません。

地方創生の掛け声の中、様々な地方創生の取り組みが進められています。今年度から始まった COC+ 事業は、山形大学を中心とした地方創生事業ではありますが、県内外の皆様と共に悩み、苦しみながら、山形の地方創生に取り組んでいきます。どうかこの事業へのご支援・ご協力をいただきますよう、お願いするものです。

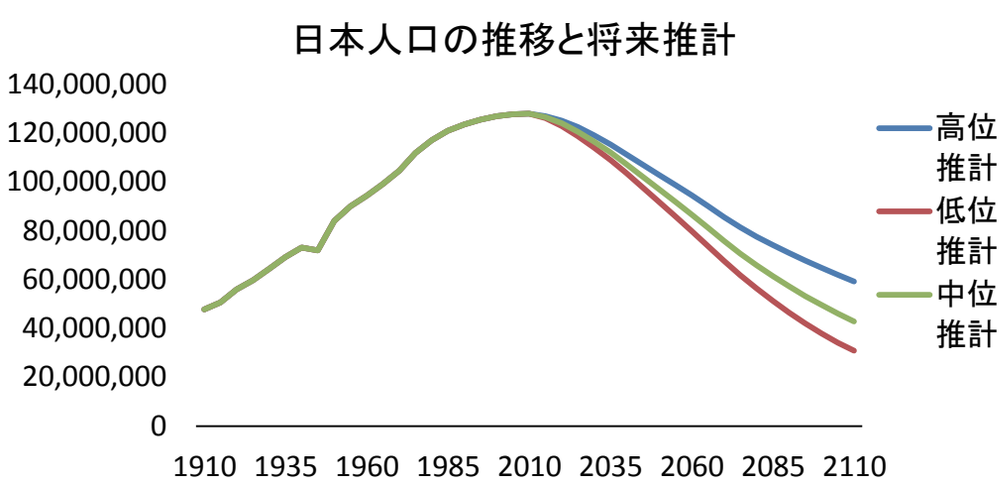
山形大学副学長
大場好弘

COC+ 事業とは何か？

平成 27 年 9 月 30 日、山形大学、米沢栄養大学、東北文教大学・短期大学部、東北公益文科大学、鶴岡高等工業専門学校が参加して運営する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+ 事業）」が開始しました。大学と地元自治体・企業・NPO などが協働して、山形県全体の地方創生事業を進めていくことになります。これまでにも進められてきた地域に密着した教育改革を加速化し、新たに「学外研修科目」「課題解決科目」「協働研究科目」を整備していきます。COC+ 事業で展開する協働人材育成部会には、大学・企業・自治体・NPO の職員だけでなく、学生諸君や一般の方の参加を強く求めていきます。協働人材育成部会に参加する全ての皆様が教育改革のみならず産業創出・雇用の拡大・高大連携などの地方創生事業へ関わっていくことになります。5 年間の補助事業期間中に、県内大卒業生の地元就職率 10%UP、雇用の 150 人 UP を目指します。

人口減少社会と地方創生事業

右図は過去数十年および将来の、日本の総人口の推移（予測）を示しています。2008 年をピークにして人口減少が始まりました。このままのペースで人口減少が進むと、2060 年には日本の総人口は 8000 万人ぐらいに減少すると予測されています。乳児死亡質の低下やライフスタイルの変化で合計特殊出生率（一人の女性が産む子供の数の期待値）が低下し、人口が減っていくのは先進国に共通した現象です。しかし他の先進国と比較して、日本の人口減少スピードは群を抜いています。



日本の人口減少が急速な理由として、地方から東京への過剰な人口流出が挙げられています。山形などの地方と比較して、東京の出生率は極端に低いことが知られています。若い皆さんが進学や就職で東京および周辺地域に転出し、そのまま大人になっていったときに子供を持つ可能性が、他県に居た場合に比べると圧倒的に低いのです。

では何故、東京への人口集中が進むのでしょうか。私たちは、その理由として、高校～大学～社会の接続が各地域で十分にできていないから、そして各地域の魅力が十分に活かされていないからだと考えています。地方創生事業を通して、東京一極集中社会の解消、少子高齢化・人口減少社会の克服を目指していきます。

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

教育科目の展開

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、地域に密着して展開する様々な教育科目を、参加大学間の連携を深めながら実施していきます。この項では、各大学で進められている先進的な教育科目を取り上げ、皆様の参加を求めていきます。

自己理解（キャリアデザイン）担当教員：山形大学・松坂暢浩

大学の「キャリア教育」ってどんなことをするのか分かりますか？「キャリア教育」というと、就職のための授業なのかな？と思う人もいるでしょう。でもこの授業では、将来「どのように生きていくのか」「どのように働いていくのか」を考え、その上で、大学で「どのように学んでいくのか」につなげていく授業です。そのために授業では、まず「自分を知る」をテーマに、座学と併せてペアワークやグループワークを行い、自分の興味や価値観などについて考えていきます。また、「コミュニケーション能力」を高めていくことも同時に目指していますので、自分に自信がもてるようになりますし、友達作りにも役立ちます。今年度は約 700 名以上の１年生が履修している授業になります。ぜひ入学したら履修してみてください。

受講者の声

「大学の授業で１番刺激があるものだったと思う！」

「今後、授業で学んだことをそのままにせず、日常生活に生かしていき、大学ならではの広い交友関係を築いていきたいです。また、就職活動の際にコミュニケーション能力で困らないように、今のうちから学んだことを意識していきたいと思います。」

「始めのうちは、グループワークが緊張して授業が辛く感じることもあったが、授業を重ねていくごとに慣れてきて、だんだん初対面の人との会話を楽しむ余裕が出来てきた。この講義のおかげで、他の授業でグループワークをする際にも自ら率先して口火を切ることが出来るようになった。」

「この授業を受講する前と違う自分になれた気がします。」

人口減少社会　担当教員：山形大学・堀内史朗

平成 27 年度後期から山形大学で開講した授業科目です。前半は座学で山形県の特徴や地方創生事業について学び、後半は地域でのフィールドワークをおこないます。今年度は山形県飯豊町でのフィールドワークを実施しました。飯豊町では、新生代のエネルギー開発を行う蓄電デバイス開発研究センターが平成 28 年に開設の予定です。また全国および海外から多数の観光客が田舎体験・自然体験を求めて飯豊町を訪れています。また飯豊町は「日本で最も美しい村連合」に加盟している、自然・文化の豊かな山村です。人口減少に立ち向かう資源や手段は揃いつつあります。

この授業では、学生たちの目線で、飯豊町の課題を発見して解決策を提案すること、その過程で人口減少社会を楽しく生きる方法を学んでいきます。本年度は飯豊町の観光のグローバル化、飯豊町の自然体験、蓄電デバイス開発研究センター近辺のインフラ整備、高齢者の生活環境整備などの課題解決に学生たちが取り組んでいます。

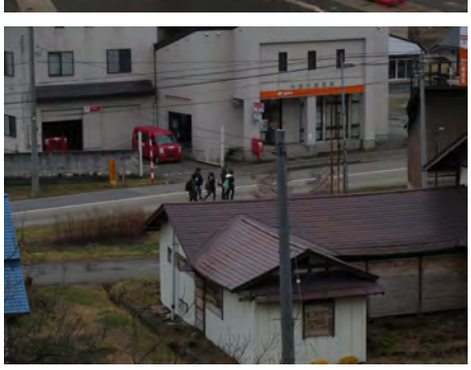
受講者の声

「飯豊町の街中には何もなく、車がない人には不便だと思う。しかし保育園設備、図書館など、子育てには魅力的な場所だと思う。」

「自由に行動することができたので、通常の授業より思考をめぐらせ協力して学びを深めることができた。」

「昔あった、地域で子供を育てる風習を復活させたい」

「自分の住んでいる地域がどんな場所なのか知らないのは恥ずかしいことであるように感じました」



やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

社長インターンシップ　担当教員：東北公益文科大学・鎌田剛

COC+ 参加校である東北公益文科大学では、地元企業の社長に密着し、経営者としてのリーダーシップを体験する「社長インターンシップ」を実施しています。

ノイズフィルターコイルで世界トップシェアの株式会社ウエノでは、上野隆一社長の“かばん持ち”に挑戦。来客一人ひとりと名刺を交換し、中国企業との商談に同席するなど、社長の人脈の広さと、地方製造業のアジア戦略の厳しさを肌で感じることができました。

真空容器・光学部品製造の秋山鉄工株式会社では、社長宅でのホームステイから実習が始まりました。挨拶・返事・感謝・掃除といった日常の振る舞いに意識を向け、社長と一緒の社内清掃や工業団地の草刈りを通じて、「ものづくりは人づくりから」という経営理念を実感しました。

担当教員の鎌田剛准教授は、「普通のインターンシップでは『業務から学ぶ』が、社長インターンシップでは、社長という『人物から学ぶ』ことになる。この取り組みをＣＯＣ＋の枠組みで全県展開し、地元企業の“ファン”になる学生を増やしたい」と意気込みを語ります。

上野隆一社長（中）と実習生（右）

実習生（左）と秋山周三社長

秋山周三社長からレクチャーを受ける鎌田剛准教授

協働人材育成部会の展開

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、教育科目の改善・開発だけでなく、地元就職率の向上、雇用の創出、高大連携を目指した「協働人材育成部会」を県内各地で展開していきます。大学教職員・学生だけでなく、地域企業、NPO、地方公共団体、マスコミ、高校生、一般住民など、さまざまな人を巻き込んで、ともに地方創生事業を展開していきます。皆様の参加・ご支援をよろしくお願いします。

第１回目協働人材育成部会（置賜地域）

第１回目の協働人材育成部会を、飯豊町めざみの里（道の駅）で開催しました。今回は、飯豊町の地方創生事業「自然・文化と最先端科学技術が融合するまちづくり推進委員会」と共催です。

はじめ、飯豊町・後藤幸平町長から地方創生事業へ向けた挨拶があり、山形大学・高橋辰弘教授、山形銀行・石川芳宏代表取締役から、それぞれ事業の趣旨が説明されました。

飯豊町の地方創生事業の核になるのが、山形大学・吉武秀哉教授を中心とした、リチウムイオン電池産業です。飯豊町に開設される蓄電デバイス開発研究センターは世界でただ一つの場所であること、ここを拠点として世界を相手にした仕事が生み出されていくことを、吉武教授は熱く説明されました。

リチウムイオン電池産業が飯豊町で運営されていくためには、飯豊町の生活環境の整備、そして人材育成が必要です。そこで飯豊町観光協会・斎藤徹副会長からは飯豊町で展開する農都交流について、山形大学・堀内史朗准教授からは飯豊町で展開している COC+ 事業の授業科目について説明がありました。また授業科目などで飯豊町に関わっている学生からも地方創生事業へ向けた思いを述べてもらいました。

このように、幅広い人々の参加で、協働人材育成部会を盛り上げ地方創生事業へ展開していきます。

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

COC+ 大学 OB・OG の現在

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、COC+ 大学を卒業した皆様の地元での就職・生活を応援していきます。じっさいに COC+ 大学の卒業生で、現在山形県内で働いている OB・OG について紹介していきます。

今回は第１回目であることから、学生のみなさんが接することの多い、大学職員として働いている OB・OG を紹介します。

加藤立隆（平成 25 年　山形大学理学部卒業）

Q. 出身は？
山形県新庄市の出身です。高校から下宿して山形南高校に通い、山形大学理学部に進学しました。

Q. 大学での専門は？
数学です。実は現在も、社会人大学院生として山形大学大学院理工学研究科で研究しており，グラフ論を専攻しています。

Q. どんな仕事をしていますか？
山形大学のキャリアセンターで職員として働いています。人文学部の就職支援や，インターンシップを担当しています。

Q. いまの仕事を選んだ理由
もともと中学校の数学教員になりたくて山形大学に入学しました。次第に，個別の教育よりも、教育プログラム全体に関われる大学の職員を志望するようになりました。

Q. 仕事の感想は？
いまの仕事をしていて嬉しかったのは、はじめはオドオドしていた学生が、インターンシップを通して自分に自信を持つようになり、報告会では堂々と発表をするようになったことです。一方、インターンシップを実施するまでの調整などでは苦労しています。

Q. 学生へのメッセージ
山形大学というと地方にある一国立大学という印象をお持ちかと思います。自分たち職員は、学生が社会とのつながりを持って、キャンパスを超えた学習ができる、そういう大学環境を整備していきたいと思っています。

熊澤舞子（平成 27 年　東北公益文科大学卒業）

Q. 出身は？
山形県天童市の出身です。高校は寒河江高校でした。

Q. 大学での専門は？
観光まちづくりに関する勉強をしていました。卒論ではシェアハウスについての意識調査をしました。

Q. シェアハウスって何ですか？
学生数人で一つの賃貸物件を一緒に借りるんです。私自身、仲間と一緒に酒田市でシェアハウスに住んでいます。

Q. いまの仕事は？
東北公益文科大学の庄内オフィス事務室に所属し、学内に設置しているコワーキングスペースを運営しています。学生や地域の方々など、そこに集まる人たちが新しいプロジェクトやビジネスを始める手助けなどをしています。

Q. いまの仕事を選んだ理由は？
卒業後には、東京で働く選択肢もありました。それでも今の仕事を選んだのは、私の将来の夢が「若者が積極的に残れる地域を創ること」、だったからです。そんな私の夢に共感して共に動いてくれる大人の方々が、庄内にはたくさんいます。

Q. 学生へのメッセージ
私はシェアハウスの取組みの中で、地域に出て色んな人と知り合うことができ、今の仕事につながりました。自分の想いを発信して、地域で実践することの楽しさを、ぜひ皆さんにも体感してほしいです。

事業の連絡先

山形大学 COC 推進室	電話 023-695-6263/6264	E-mail: cocsuisin▲jm.kj.yamagata-u.ac.jp
東北公益文科大学庄内オフィス	電話 0234-41-1115	E-mail: coc-office▲koeki-u.ac.jp
米沢栄養大学総務企画課	電話 0238-22-7330	E-mail: jimu▲yone.ac.jp
鶴岡工業高等専門学校総務課	電話 0235-25-9453	E-mail: kikaku▲tsuruoka-nct.ac.jp
東北文教大学運営企画室	電話 023-688-2298	E-mail: m_mihara▲t-bunkyo.ac.jp

※▲を @ に変換してください